



令和5年度 東京都立田柄高等学校 学校経営報告

【A 達成 B 概ね達成 C 達成まであと一歩】

一 学 習 指 導	中期的目標と方策	
	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ① 1 全教科で、多角的な視野に立つ様々なものの見方考え方を習得させ、言語能力を向上、論理的思考力や国際社会に貢献できる資質・能力の育成を図る。(スクールポリシーを踏まえた学習指導、日本語指導、一人1台端末によるオンライン授業の実施も含めた授業改善) 2 生徒の体力向上に関する取組等に基づきながら、2020 学校ガシを見据えた教育を構築する。	
	今年度の成果と課題(※)	関連する数値目標と達成状況
	★生徒の授業満足度 授業評価アンケート項目「あなたはこの授業に満足できましたか」 94.1% 学校評価アンケート項目「田柄高校の授業は充実している」 生徒71%、保護者83% ① 教育庁指導部事業「探究的な学び推進事業」12月指導部主催成果発表会でポスター発表。※探究的な学びを推進する中核人材の育成 ② 日本語指導委員会を中心に取組し授業における生徒の習熟度を把握し指導方針を決定。放課後の日本語指導対象生徒数減少。年度当初47人、年度末23人。都教委日本語指導推進フォーラム及び都教委動画Global Student Naviにおいて本校の取組紹介。次年度日本語指導推進校の指定。 ※対象生徒増(令和5年度比150%)による校内体制の再構築 ③ 長期休業期間34講座(延べ261人)、定期考査ごとに放課後の校内寺子屋、スキルアップ推進校事業英検講座※外部人材の確保。 ④ 上級検定試験合格者24名(英検1級2名、準1級1名、2級3名、準2級1名、duolingoスコア100以上4名、日本語能力試験N2レベル7名、N3レベル6名)※上位級への挑戦を喚起する取組。 ⑤ 生徒理解、ICTスキル向上、授業力向上等をテーマに校内研修35回。 ⑥ 校内教員相互授業参観実施。4.7回/教員 教員86%が参観。 ⑦ 国際理解教育とボランティア活動の醸成。明海大学留学生との交流、東京体験スクールによるオーストラリアからの高校生受入れ、アバインターナショナルスクール訪問、光が丘地区祭ボランティア、公園清掃。 ⑧ 光が丘公園でのロードレース大会(1,2年生)実施。 ⑨ スキルアップ推進校事業「デジタルスキル講座」1年生全員5日間	教員相互授業参観 年3回以上/人 A 授業実践校内研修 年10回以上A 国際交流 年2回以上A 長期休業日中の講習 20講座以上 100人以上A ワグメント講座の開催 30講座以上B 各種検定受検指導 年9回A 英検・漢検(準2級以上)及び 日本語能力試験(N3)等検定合格 年30人以上B 生徒授業満足度 80%以上A 2020 学校ガシ講演会 年1回A ロードレース大会の実施 年1回A

二 生 活 指 導	中期的目標と方策	
	社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成 ② 1 生活指導(規律ある生活習慣を身に付ける指導)から生徒指導(国際社会を生きるために必要な資質・能力を育成する指導)への転換を推進する。 2 多様な生徒が在籍する本校における人権教育を推進し、人権尊重教育推進校の指定を目指す。	
	今年度の成果と課題(※)	関連する数値目標と達成状況
	★生活指導 学校評価アンケート項目「わたしは学校のきまりを守っている」 86% 「部活動に積極的に参加している」 48% ★いじめ防止 学校評価アンケート項目「田柄高校は、いじめ防止の取組をしている」 71% ① セーフティ教室、薬物乱用防止教室、生徒会によるヘルメット着用運動 ※ヘルメット着用100%に向け自転車通学許可証を改訂 ② 遅刻者数2.4人/日、特別指導件数15件(前年度より19件減少) ※担任・学年・生徒部の指導体制を見直し、組織的に取り組む ③ 部活動加入率38.1% 生徒会、男子バスケ部、野球部、サッカー部等、学校説明会での校内案内及び通訳ボランティアや大島合同合宿参加など活動が活性化 ※部活動加入生徒の校内での活躍を周知・発信 ⑦ 練馬区防災課、消防署、警察署、練馬区立光が丘公園等と連携した防災訓練 煙体験、AR体験、消火体験、起震車体験、冬季被災時の火起こし体験 ※連携により活動が充実。生徒数増による体験内容等の見直し。 ⑧ 校内いじめ防止委員会、外部講師による人権講話、SC及びYSWとの面談 ※認知件数増。教員・生徒の人権意識向上の現れ。授業や講話の充実。 ⑨ 校則の見直しについてのアンケート(生徒・教員)、PTAとの意見交換、生徒会提案による防寒具についての見直し※ルールを守り自ら行動する生徒の育成を推進	遅刻者数 HR 平均 3人以下/日 A 部活動の加入率 50%以上B 問題行動抑止 特別指導件数 年 20件以下A 校内美化キャンペーン実施 年3回 A 生活指導方針 ホームページ等公表 A 地域と連携した防災活動 年1回 以上A 体罰事故防止研修実施 年3回以上 A

III 進 路 指 導	中期的目標と方策	
	社会的・職業的自立意識の醸成 1 3年間を見通したキャリア教育実践、放課後講習や長期休業日中の講習等を通して生徒の学習意欲を向上させることで能力を引き出し、より高い進路目標の設定と実現、卒業時の進路決定率の向上を図る。	
	今年度の成果と課題（※）	関連する数値目標と達成状況
	★指導・相談体制 学校評価アンケート項目「先生は生徒の声をよく聞き、アドバイスをしてくれる」生徒 83% 、「教員の指導は適切に行われていると思う」保護者 84% ① キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲによる3年間のキャリア教育 ② 全教員による進学・就職向け面接練習 ③ 卒業後のロールモデルの提示（明海大学留学生及び産業能率大学学生との交流）看護模試、総合型選抜対策、学費等多言語での情報提供 ※多言語による情報提供の推進 ④ 学年、分掌・委員会、特別支援教育心理士及びユースソーシャルワーカーの連携※生徒の特性の把握・共有と特性に応じた進路支援 ⑤ スキルアップ推進校事業「職場体験を通じた企業人とのコミュニケーションスキル講座」ビジネスマナー講座2年生全員※校外で実施するインターシップ等の活用 ③進路決定率、進路先及び主な入試方法（大学） 進路決定率 72.7%、就職内定率 81.8% 大学 38 名（難関私立大学 1、日東駒専 2）、短期大学 14 名、専門学校 31 名、就職 9 名、海外大学進学予定 6 名、進学準備等 34 名 入試方法（大学）指定校 18 名、公募 5 名、総合型 12 名、一般 3 名 ※日本語を母語としない生徒・家庭への支援、保護者会、三者面談に参加できない保護者向けオンライン配信（R5） 対面による情報発信との併用	三者面談の全員実施 B 自習室活用 200 名以上 C 大学合格者 30 名以上 A 進路決定率 90%以上 C 職場体験・企業見学等参加者 50 名以上 B

IV 特 定 活 動 ・ 部 活 動 ・ 健 康 活 動	中期的目標と方策	
	学校行事の充実と部活動の振興 1 体育祭や文化祭、修学旅行、英語レシテーションコンテスト、伝統文化発表会、百人一首大会等の多様な学校行事を通して、平素の学習活動の成果を活かすとともに、自主的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。 2 生徒の自主的・自発的な参加によりスポーツや文化等に親しむ活動として、地域行事への貢献等、地域との連携を図りながら、部活動の振興を図る。 3 儀式的行事の適正な実施 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、新しい生活に向けた希望・意欲を新たにもちながら厳粛な中で規律ある態度で臨むなど、儀式の意義を踏まえた指導を適切に行い、儀式的行事を適正に実施する。	
	体力向上・健康づくりの取組 1 体育の授業や体育的行事、部活動を通して、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育、メンタルヘルスに配慮した、心身の健康づくりを推進する。 2 保健相談機能を生活指導部が総合的にを行い学校保健活動及び教育相談活動を充実させ、生徒の健康づくり活動、校内美化活動の推進を図る。 3 新型コロナウイルス感染症対応として、安全・安心な学校教育を展開するため、コンディションレポート等の活用により学びを止めない姿勢で進めていく。	
	今年度の成果と課題（※）	関連する数値目標と達成状況
	★学校行事 学校評価アンケート項目「私は学校行事に積極的に参加している」 79% ★保健・美化活動 学校評価アンケート項目「私は校内でゴミを散らかさないなど、校内の美化を心掛けている」 86% ① 体育祭、文化祭、日本の伝統・文化発表会、ロードレース大会、全学年で実施、近隣幼稚園・高齢者施設からの訪問 学年行事（英語レシテーションコンテスト、百人一首大会）感染症拡大なし ② 合宿、練習試合など 部活動単位の広報活動として学校見学会・説明会及び新入生招集日の案内及び通訳補助など。和太鼓部、華道部、茶道部、生徒会が光が丘地区祭参加※合同練習など近隣中学校との交流 ③ 養護教諭による熱中症防止研修、養護教諭不在時の活動における対応整備 ③ 学校保健委員会、安全衛生委員会 専門医から生徒・教員の健康について助言 ④ 日本語を母語としない生徒向け保健関連情報の多言語発信（動画・お知らせ） ※コンディションレポートの活用	英語レシテーションコンテスト 年 1 回 A 日本の伝統・文化発表会 年 1 回 A 百人一首大会 年 1 回 A 部活動顧問会議 年 5 回 B 学校保健委員会 年 1 回 A 安全衛生委員会 年 12 回 A コンディションレポートを活用した健康観察・消毒の実施 通年 C

Ⅴ 教育課題	中期的目標と方策	
	グローバル人材の育成 1 教育課程の適正な実施に向けて、重点支援アドバンス校として新教育課程の確実な実施と学年進行によるコース制の解消の対応を着実に推進する。 特別な支援を必要とする生徒の自立に向けた支援の充実 1 校内特別支援教育推進体制を充実させ、自立支援チーム、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、精神科医、特別支援教育心理士等の活用により、個々の生徒理解、対応を図り、中途退学・不登校を防止するなど、すべての生徒が安心して通える学校環境を構築する。 2 特別支援教育の理解啓発活動、特別支援教育コーディネーターの資質向上を目指して不登校・中途退学者対策への支援をすると共に、必要な生徒に対して通級による指導を実施できる体制を構築する。	
	今年度の成果と課題（※）	関連する数値目標と達成状況
	★教育相談体制 学校評価アンケート項目「先生は生徒の声をよく聞き、アドバイスをしてくれる」 生徒 83% 、「教員の指導は適切に行われていると思う」保護者 84% ①観点別評価・評定 教科主任会で検討、周知 ※成績会議で評定の誤りを修正。年度当初及び成績処理前の研修継続 ②校内寺子屋 14 回実施 指名された生徒の参加率 国語 62.5%（前年度 46.9%） 数学 60%（前年度 46.5%）英語 61.9%（前年度 62.5%）参加率向上 ※対象者について要検討 日本語支援も必要 ③教育相談連絡会等 SC 1 名、YSW 3 名及び外部機関（児童相談所、入国管理局等）との情報共有と生徒・家庭支援、生徒部と連携し生徒の問題行動への支援、中途退学者数改善 24 名（前年度 57 名） 定例会・研修会 12 回、専門医等による訪問支援 11 回実施、自立支援チームによる相談 183 回 ※遅刻・欠席により進級が危ぶまれる生徒あり。遅刻・欠席が多い生徒への専門的見地からの助言を活かした組織的な支援	新教育課程評価基準 年度末まで B 学力向上研究校「校内寺子屋」3 教科（国・数・英） B 自立支援チームによる相談 年 150 回以上 A 生徒の進路変更（転・退学） 年 30 人以下 A 特別支援教育の理解啓発事業への参加 A （研修参加、校内伝達研修実施）

Ⅵ 募集・広報活動	中期的目標と方策	
	魅力ある学校づくりと魅力の発信 1 「『入れる学校』から『入りたい学校』へ」を合言葉に、学校環境・教育内容の改善・充実を図り、積極的な募集・広報活動を展開する。 2 ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ・アクセシビリティ）の観点から、多様な志願者のニーズに応えるよう募集・広報活動を創意工夫する。	
	今年度の成果と課題（※）	関連する数値目標と達成状況
	★地域の声 学校評価アンケート項目「田柄高校は適宜学校改善に取り組んでいると思う」 53% （わからない 47%） 「生徒は依然より良くなっていると思う」 67% （わからない 16%） 「田柄高校は地域に向けた情報発信を行っていると思う」 41% （わからない 39%） 「田柄高校の HP や X を閲覧したことがある」 24% （わからない 33%） 「田柄高校は HP や X、授業公開、文化祭など、学校の情報を適切に発信している」 38% （わからない 49%） ★入試応募倍率 推薦 0.7 倍 （前年度 0.7 倍）在京 1.85 倍 （前年度 1.45 倍）前期 0.87 倍 （前年度 0.56 倍）後期 1.0 倍 （前年度 0.3 倍） ① 平易な日本語やルビ対応の他、多言語による情報発信（X、学校案内） ② ホームページ更新 453 回、X 発信 164 回 ③ 学校見学会・学校説明会・個別相談会等、多言語対応 ④ 中学校 98 校他、私塾、フリースクール、児童館等への広報活動、 ⑤ 出身中学校別在籍生徒数及び入学後の転退学状況を踏まえた中学校訪問 ⑥ 都立高校魅力発信事業による PR 動画 4 本 ※様々取組の改善は図っているものの、学校評価アンケートでの地域の 4、5 割が「わからない」との回答 学校案内の送付範囲を検討 ※応募倍率は大幅に改善 入学者への聞き取り等により要因を把握	ホームページ更新 年 150 回以上 A 学校見学会等 年 10 回以上 A 学校だよりの発行 年 10 回 A 学校説明会来場者 年 800 人以上 B 中学校・塾訪問 年 100 校以上 A

Ⅶ 学校経営・組織体制	中期的目標と方策	
	学校経営における組織力の向上 1 学校の組織的経営と効率化の推進、各分掌・委員会と学年担当との連携、職員室と経営企画室との連携、学校経営支援センターとの連携により、事務業務の機能の充実と効率化、学校経営計画に基づく予算編成・執行を行う。 2 学校運営連絡協議会や防災教育推進委員会の充実を図り、地域連携を強化させることで、課題解決に向けた適正な学校経営の改善と意思決定を行う。 3 教職員の働き方改革を行い、ライフ・ワーク・バランスに基づいた勤務を推進する。	
	今年度の成果と課題（※）	関連する数値目標と達成状況
	★ライフ・ワーク・バランス 学校評価アンケート項目「私は働き方改革（個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で「選択」できる）に積極的に取り組み、業務の効率化や在校時間の縮減に努めている」 75% ★学校満足度 学校評価アンケート項目「私は田柄高校に入学できてよかった」 71% （前年度 78%） 「子供を田柄高校に入学させて良かったと思う」 89% （前年度 85%） ① 校則に関するワーキンググループ、教育相談連絡会、いじめ防止委員会等、課題解決に向けた取組 ※若手中堅教員の課題解決力、学校経営への参画 ② 分掌連絡会及び特別指導委員会による学年・分掌・委員会の連携の強化 ※生徒指導提要进行を踏まえた議論と特別指導の見直し ③ 経営企画室長の各種職員打ち合わせへの参加 ※大規模・長期間の工事においては教育活動への影響について事前に経営企画室と関係教職員間で打ち合わせを行い、実施期間及び期間中の対応を検討 ④ 光が丘地区祭（和太鼓部、茶道部、華道部、生徒会） 練馬区防災課、光が丘消防署、光が丘警察署、光が丘公園事務所と連携した体験型防災訓練・避難訓練（火起こし体験、AR 体験、起震車体験等） ※生徒数増に対応した体験メニューの検討 ⑤ 職員会議資料の電子化（100%）、電子起案（100%）、大学等への出願書類の誤りゼロ ※会計年度職員を含む全職員への対面による個人情報の取扱いに関する研修 取扱マニュアルやフローチャート等による流出防止 ⑥ 産業医による面談（各月）、授業日以外のテレワークの推進（夏季・冬季・春季）、勤務時間外電話対応の録音メッセージ導入（通年） ⑦ 入学者選抜業務（作問・運営）事故ゼロ（推薦・在京・前期・後期・各学期転編入） ⑧ 火災報知機の誤発報への対応 体育館非常扉錠の修理 特別教室等への空調設備設置 ※火災報知器は修繕も視野に入れ経過観察中	地域行事・ボランティア活動参加等、地域連携活動 年 3 回以上 A 一般需用費のセンター執行率向上 60%以上 B 学校事故苦情ゼロ、サービス事故ゼロ B 学校満足度 生徒・保護者 80%以上 B 校舎老朽化・危険箇所への速やかな対応 B サービス事故防止研修の実施 年 3 回以上 A メンタルヘルスケアに関する取組 年 6 回以上 A